

草丈急伸長、葉色は濃く、倒伏の恐れあり！ 1回目の穂肥は、稲姿を見て慎重に！

1 コシヒカリの生育状況(7月10日現在)

【草丈】やや長い 【茎数】やや少ない 【葉令】並 【葉色】濃い
○草丈は急伸長し、やや長め。葉色は濃い状態

※出穂予想は随時更新されます。最新の出穂予想を携帯メール稲作情報で配信しますので、最新情報を活用してください。



2 コシヒカリの出穂予想(7月12日現在)

【5月13日～15日植え】・・・8月3日→穂肥1回目は7月16日

【5月16日～20日植え】・・・8月4日→穂肥1回目は7月17日

○ほ場間差が大きいため、必ず各ほ場で幼穂を確認しましょう。

3 幼穂による穂肥時期の診断

○ほ場内の平均的な生育の場所で5本程度調べ、平均した幼穂長を基準に穂肥時期を判断してください。

幼穂長と出穂前日数

出穂前日数	24日	20日	18日	12日	10日
幼穂長(cm)	0.1	0.4	1.0	4.0～6.0	8

4 穂肥1回目は、草丈・葉色で施用時期・施用量を決定

1回目穂肥時(出穂18日前)の生育診断で、
○葉色(群落)4.0又はSPAD値37以上なら→1回目の穂肥はパス!
○草丈80cm以上なら → 1回目の穂肥はパス!

【1回目穂肥時(出穂18日前)の生育診断方法】

草丈	葉色		穂肥量 (N成分 kg/10a)	[散布例] 越後の輝き有機50穂肥 (kg/10a)
	(群落)	(SPAD値)		
75cm 未満	3.0以下	32以下	1～1.5kg	8～12kg
	3.5	33～36	0～0.5kg	0～4kg
75cm～ 80cm	3.0以下	32以下	0～0.5kg	0～4kg
	3.5以上	33以上	無施用	—

【重要】越後の輝き有機50穂肥の窒素含有率は12%で、昨年まで使っていた魚沼ロマン有機穂肥(窒素含有率10%)より窒素含有率が高いため、施用量に注意しましょう。

今年の夏は暑い予報 2回目穂肥は、稲の栄養維持に重要！

5 2回目の穂肥は後期栄養維持のため、確実に施用しましょう

散布時期: 出穂12～10日前(主茎幼穂長: 4～8cm)

散布量: 窒素成分1.0～1.5kg/10a (越後の輝き有機50穂肥: 8～12kg/10a)

- 1回目の穂肥を散布できず、葉色が淡くなった場合等は、2回目をやや早め、やや増量して散布しましょう。
- 極端に葉色が濃い場合は、散布量を減らしましょう。
- 基肥一発肥料でも出穂期の葉色の低下が見込まれる場合は、穂肥を施用しましょう。

6 栄養凋落が懸念される場合は、3回目の穂肥

○2回目の穂肥施用後も葉色が低下し、出穂後の異常高温が想定され、栄養凋落による品質低下が懸念される場合は、3回目の穂肥を施用しましょう。

判断時期: 出穂期6日前

葉色のめやす: 葉色(SPAD)が33以下のとき

散布時期: 出穂期3日前(走り穂が見られる状態)まで

散布量: 窒素成分1.0kg/10a (使用する肥料はご相談ください。)

7 出穂3週間前から常時湛水で安全・安心な良食味・高品質米生産

○高温時には水の更新、深水管理で水温上昇を防ぎましょう。

8 カメムシ類による斑点米防除

- カメムシ類の餌となる雑草が結実しないよう、畦畔・農道の草刈りを徹底し、出穂後も継続して実施しましょう。
- 水田内のヒエ・ホタルイを除去しましょう。
- 適期に薬剤防除を実施しましょう。(薬剤に書いてある使用方法を必ず確認すること)

○農作業事故に注意しましょう。特に、草刈り作業は周囲に気を配りましょう。
○農作業時の熱中症に注意しましょう。こまめな休憩と水分補給が大切です。

※ 穂肥診断等の詳しい資料は指導会資料(営農センター、振興局HP等)をご覧ください。携帯メール会員募集! 営農センターへお問い合わせください。